

2009年に起きた、新型A型インフルエンザ パンデミックH1N12009を振り返る。

現在パンデミックを起こしている、新型コロナウイルス COVID-19 を考えるうえで、2009年に世界的パンデミックを起こした、新型A型インフルエンザ パンデミック H1N12009 を振り返ってみましょう。



パンデミック H1N12009 ウイルスは、2009年4月にメキシコで確認されてから世界に広がり、2009年5月16日に日本で初めて確認されました。

当初は今回の新型コロナウイルスと同様に、指定感染症となり、強制入院措置を行っていました。

そして、6月11日にWHOが世界パンデミック宣言を出しています。その後、感染者数の増加と、このパンデミック H1N12009 ウイルスが、これまでの季節性インフルエンザウイルスと同程度の毒性であると判断したことから、6月19日に強制入院措置を中止しました。

感染者数が5,000人を超えた7月24日からは、感染者のカウントも止めて、季節性インフルエンザと

同様に、全国5,000施設での定点観測に切り替えています。

結局2009年の推計受診患者数2,059万人、

入院患者数は約1.8万人で、199人が死亡しました。

(死亡率は10万人当たり0.16)

これは諸外国に比べて非常に低い水準で、

アメリカでは12,000人が死亡しています。



⑤ 通年性インフルエンザを考える。

次に、最近の季節性インフルエンザはどのような状況なのか、見てみましょう。

例年のインフルエンザの感染者数は1,000万人以上あり。

2018年のシーズンには2,249万人で2009年のパンデミックを抜いて、過去最高を記録しています。また、死亡者数は2010年の161人を底に増加の傾向がみられ2016年に1,463人、2017年2,569人、2018年3,325人となっています。

一方、アメリカでは2017年にインフルエンザに罹患した人は4,500万人で、61,000人が亡くなっています。

インフルエンザは、ワクチンがあり、抗インフルエンザ薬が5種類も発売されているにも関わらず、この数字なのですから、やはり恐ろしい感染症であることは間違いありません。

⑥ 新型コロナウイルス COVID-19について

さて、今回パンデミックを起こしている COVID-19 について、少しお話します。

インフルエンザは先ほどお話したように、年間2,000万人が罹患して、3,000人以上が亡くなっているにもかかわらず、ほとんど騒動にならないのに、COVID-19が大騒ぎになっているのは、治療薬とワクチンが無いからです。また、志村けんさんのような有名人が亡くなったのも、脅威に拍車を掛けています。そして、テレビや新聞での取り上げられ方によっても、皆さんの捉え方に随分違いが出てきてしまいます。おそらく COVID-19 に対して有効な薬が今後見つかるでしょうし、ワクチンも開発されると思いますが、インフルエンザのように関心がなくなってしまうのはいけません。基本的感染予防が大切であるという教訓は、後世に活かされるべきです。

